

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	41202
----------	-------

1. 開設大学	福山平成大学	開講場所 (キャンパス・施設)	本学			
2. 科目名	「教室空間」と「学習スタイル」の歴史					
	学問分野	番 号	1 4 名 称 教育学			
3. 担当教員	福祉健康学部こども学科 山崎洋子					
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成29年10月21日 (土) ~ 平成29年10月21日 (土) 12時30分 ~ 15時40分 (90分×2回)					
個別開講日	1回目 /	2回目 /	3回目 /	4回目 /	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /	10回目 /	11回目 /	12回目 /
5. 募集定員	30人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>1. 大学紹介 講師：健康スポーツ科学科 沖増教授(社会連携推進委員長)</p> <p>2. 専門分野紹介</p> <p>3. 講義</p> <p>子どもや生徒が多くの時間を過ごしている学校という場合は、なぜ、今のようなシステム(設備、方法、制度)になったのでしょうか。</p> <p>本講義では、このことにアプローチするため、教室という空間(教室空間)と、そこで営まれる「教えー学び」の関係を規定する「学習スタイル」に着目し、その歴史的ダイナミズムに迫りたいと思います。</p> <p>顧みるならば、日本は、1872(明治5)年の学制を出発点として近代的な普通義務教育の制度を拡充してきました。その方法原理は、寺子屋や手習い塾が採用してきた個別学習ではなく、産業革命を最も早期に成し遂げたイギリスで考案された一斉教授方式でした。日本で取り入れられた一斉教授の方式は、いわゆる西欧型の「近代学校」を普及させ、やがて、それは注入主義的な教授法になっていきます。そのことによって学校は、学ぶことを享受する場であるだけでなく、立身出世の場となっていきました。しかし、この一斉教授方式は、「画一的である」、「教師中心である」、「子どもの個性を無視している」などといった批判を受けることとなります。それは、歴史的には、大別して、大正デモクラシー期、第二次世界大戦直後、そして1980年代に出現します。さらに、近年では、アクティブラーニングなる方法への転換とその導入の必要性が学校現場に課されている状況が生じています。</p> <p>これらの史的変遷を念頭に置き、本講義では、「学校とは何か」、「教育とは何か」という根源的な問いを意識しつつ、教室空間と学びのスタイルがどのように変わってきたか、ということの後述します。</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) 無料					
9. 開講条件※1 あり・ない	① <input type="checkbox"/> 最少開講人数 ( 5 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月15日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月16日(土)以降の開講科目は6月末まで)					
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと 集合場所 2号館ロビー(11:30分までに集合)					
11. 開設大学への 交通手段	<a href="http://www.enica.jp/">http://www.enica.jp/</a> から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※1 申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。